

甚小だより

# 明日咲くつぼみ



あま市立甚目寺小学校  
平成26年度 第14号  
平成27年 2月16日

甚目寺観音と甚小の子どもたちのかかわり2題

## 甚目寺観音節分会 (2月3日)

春の訪れを感じさせる日差しと冬の厳しい冷え込み（名古屋最低気温1℃、最高気温10℃）の2月3日、甚目寺観音の節分会が開催されました。節分とは季節の分かれ目を意味する言葉で、もともとは、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれ前日を指していました。立春の前日に行われる「豆まき」の行事は、「追儺（ついな）」と呼び、中国から伝わった風習で、文武天皇の時代に宮中で初めて行われたといわれています。

甚目寺小学校では、総合学習「ふるさと学習」の一環として、平成24年2月より、この地域行事に6年生が参加しています。（それ以前にも3年生が社会科「地域の行事を知る」として見学したことがありました）6年生は事前活動として境内やお堂の清掃活動を行っていることもあり、早朝のキーンと引き締まった空気の中、お堂の中に入る姿にも程良い緊張感が感じられました。将来の地域の担い手として成長する上で、地域の行事に関わっていくことは意義深いものです。



## 甚目寺観音てづくり朝市 (2月12日)

5年生は地域の産業について学習しています。これまでに甚目寺地区の伝統産業である刷毛づくり、方領大根や小松菜栽培、地域の企業について学習をしてきました。これらの学習をもとに地域に対して自分たちができることをしようという視点から平成25年2月から甚目寺観音のてづくり朝市に参加しています。朝市では、夏休みを中心に取材活動した企業や栽培方法についてご指導を受けた農家から提供を受けた製品や小松菜・方領大根などの農作物、子どもたちの手づくりの小物、校内で実ったレモンなどの販売活動を行いました。あわせて地域の産業について学んだことをまとめたポスターを掲示し学習の成果の紹介も行いました。

販売分野ごとの班や会計班に分かれて、3クラスが時間差を設けて朝市を運営しました。地域の方々にも甚小の子どもたちの参加が定着し毎年好評を得ています。教室での学習→地域での取材活動やふれあい→実態や課題、問題提起などをまとめて発表→自分たちが地域でできることを考えて準備→実践、という流れでこの日に至りました。1年間の学習を通して「地域の一員」としての意識が育っていきます。

節分から10日ほどですが、日差しに「春」を感じる1日でした。



### 【お詫びと訂正】

先号の号数を「第14号」としましたが、正しくは「第13号」でした。訂正させていただきます。

